

第5回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

日 時 令和4年11月17日(木)

19:10～19:40

場 所 公民館3階会議室B

《政策推進課》

出席者(委員): 三津橋 弘茂 部会長、田中 由紀子 副部会長、伊藤 成人 委員、
高松 峰成 委員、成田 菜穂子 委員

出席者(町) : 田村泰司課長、樋口知志主幹

▽施策項目「産業」

事務事業名「下川産材を使用した備品購入」

町 : 内容説明

委員 : 予算規模はあまり大きくなく導入数量に限られるイメージがあるが、導入施設は決まっているのか。また、デザインなど施設側の要望等はどのような形で反映されるのか。

町 : 1脚あたり5～6万円を想定。年次的な導入を検討している。導入に際しては、政策推進課所管の部分が多く既存什器の更新が中心となる。希望数などを聞き取りしながら進めていきたい。

委員 : 地域材の利用を基本とし、機能性、耐久性、デザインなどを考慮しながら作成いただきたい。また、併せて町内木工作家の作品を購入することができる展示ショールームなどがあると良い。

町 : 旭川市では、ふるさと納税の返礼品にカンディハウスの商品を取り入れている。本町においても公共施設での利用のみならず一般ユーザ等への販売まで展開できればと考えている。これまで、地域材を活用した什器を製作しているが、地元事業者で製作可能なものを基本としており、機能性やデザインなどを兼ね合わせた製品の製作が課題であった。そのため、コモレビや結いの森への導入では、イトーキと連携し製作した経緯がある。

委員 : 地域材の活用は、林業振興審議会でも話題となっており積極的に推進して
いただきたい。製作だけではなくリペア（補修）やライフサイクル等も考
慮しながら進めていただきたい。

委員 : 古くなった什器はバイオマス燃料となるのか。

町 : 接着剤等の関係もありすべてがバイオマス燃料とはならないが、ごみの減
量化等も含め使用後も有効活用できるような製品について検討したい。

委員 : トドマツで什器を制作し東京駅付近の居酒屋に導入した事例がある。トド
マツは、カラマツと比べ柔らかいため什器には向かないが可能性はある。

町 : 先日、友好協定先である京丹波町新庁舎を視察した。地域財が活用されて
おり杉材のフローリング、地域材を活用した什器が導入されていた。

委員 : 地域の広葉樹で製作するのは難しいのか。

町 : 安定的な材の確保が難しく、価格も針葉樹と比べて高いため、これまでカ
ラマツで製作を行っている。